

まちづくり懇談会内容

日 時：令和 5 年 11 月 2 日(木) 10：00～11：25

場 所：日出生活館

出席者：10 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認及び進め方の説明

3. 懇談

(1) これからのまちづくりについて (資料①)

(2) 自由懇談

教育長説明

4. その他

○ごみ分別内容の変更 (資料②)

5. 閉会 町長挨拶

懇談会終了

《懇談内容》

【自由懇談】

町民：夕鉄バスの廃止に伴い日出地区もその該当エリアでありました。町としてはいま栗山町から南幌町・北広島までデマンドバスを運行していますが、日出地区では何名か夕鉄バスを利用して早朝便で札幌の病院へ通院している方もおり、7 時 50 分のバスで午前中の受付に間に合っていました。夕鉄バス廃止となり、栗山まで行けばデマンドバスや中央バス札幌行きのバスに乗れば何とか通院できるが、栗山まで行くバスがなく大変不便である。そうするとタクシーを利用するしかないが栗山駅まで約 5 千円かかり高額である。できれば今まで利用していた時間帯の早朝便など、栗山駅まで予約運行でもいいので何とかならないか。予約運行ともなると継立の方も利用できると思うのでその辺も含めてご検討いただければと思います。

町長：町営バスは走っていますが、早朝便など乗り継ぎ時間がマッチしない部分も出てきて

いると思います。いま町営バス見直しの最終検討に入っているで、夕鉄バス廃止と中央バス減便の関係も踏まえ、最終の検討を急いでやらなければならない。その中でうまく乗り継ぎできるような方法についても検討していきたい。

町民：全道的にヒグマの発生が非常に多い。栗山地区では町産業振興課で毎日ホームページでお知らせしています。今回栗山町で9月、10月で16回出没している。産業振興課の方が会長宅へチラシを持ってきますので、地域の方に配っています。これは栗山だけの問題ではなく夕張などでも出没しているが、この件に関して北海道から何か指導などあるのでしょうか。また、注意喚起の方法ですが、チラシ配布した時点でクマは遠くへ行ってしまいますので、何か迅速に伝えるいい方法があればご検討願いたい。

町長：先日、全道の市町村長の会議があり、この課題が産業振興対策という位置づけとして挙がっている。栗山でも目撃情報で16件あり、追いかけて観察しながら山に返したというのが現実的なところであります。全道の状況を聞くと、道北・道南の一部・道東などでは栗山の比ではない。目撃情報は何百件、人的・農作物被害は相当出ている。駆除についても保護団体等との絡みもありますが、駆除した件数は百件以上といった町もたくさんあります。この辺りは夕張山系の麓ではありますがそこまでの影響は出ていないが、目撃情報があれば栗山町の場合、産業振興課が中心となって警察や関係機関とチームを作って動いている。クマの行動範囲は広いので、広域的な連携体制もとっており、随時連絡をとりながら連携している。以前行っていた春クマの駆除は、動物保護の関係で中止しており、急激に頭数が増えてきた一つの要因でもあるようです。あとハンターの成り手不足など色んなものが重なり、クマが人里まで出てくるようになった状況です。そんな状況であります大きな事故が起こる前にご提言のあった注意喚起の方法も持ち帰って担当へ検討するよう指示をしたい。

町民：迅速に連絡するのは大事だと思います。子どもが小学校に通っているが、継立の場合は小学校から学童に歩いていくのでクマが出たとなると心配。学校にはおそらく町から直接連絡がいくと思うが、学童の方にはきていなかったりタイミングが遅れたりして、子どもがどうやって行くのか、親が迎えに来てくださいますかとするのか学童の先生が迎えに行き連れて行ってくれるのかといったところがマニュアル化されていないような感じであったので課題かなと思います。クマだけではなくミサイルなどの時もどのように子どもの安全を守るかといった各施設の連携が不足していると思います。

町長：学童の関係は今のマニュアルでどうなっているか確認いたします。学校には当然連絡はしていますが、そこから学童までの間の対応など含めて伝えていきたいと思います。ミサイル発射の件も色々と議論しています。私も同じような感覚を持っていて、サイレン等が鳴って身の安全を確保してくださいといった情報は出ている中で、子どもたちが通学路を歩いている。その時に子どもたちをどうやって守るかというところは、空知管内でも先進的にミサイル発射を想定した訓練も実施している町もあるので、栗山町も取り組ん

でいかなければならないですし、どういった対応をするかマニュアル等もしっかり構築していかなければならないと思っております。

町民：農林業の担い手育成で、コロナ禍もあってここ数年栗山に新規就農で入ってきている人数が少ない。日出は比較的に入ってきており、日出の農業は持ちこたえているのかと思いますが、栗山全体で見たときにもっと継続的に新規就農者を連れてくる活動をやっている方がいいと思うが、方針的なものがあれば教えていただきたい。

町長：新規就農の関係でこれまでも進めてきていましたが、ここ2、3年はコロナの影響でストップしている状況。20数件入ってきている新規就農者の方には地域農業、地域づくりを支えていただいている。これから先の農業振興計画ルネッサンスの中では10年先くらいには今より4割くらい農業経営体の数も減少する推計が出されている。その時に遊休地や不耕作地を出さないで栗山農業を維持していけるかが非常に大事。そのためには今進めている農業基盤整備事業や農作業の省力化に向けたスマート農業など、行政としてやれるところはしっかりやっていきたい。ただ、農地拡大していくのも限界がありますので、新規就農者など全体的な取組が必要になってくる。担い手確保は大事で、そのためには規模を拡大していく農家への支援も新規就農と合わせて実施していかなければならない。経営を広げていくにはそれなりの農業機械が必要となるので購入支援など、全体的に農業をどう守っていくかというところを農業振興公社、農協、改良区、農業関係団体と力を合わせて進めていきたい。

町民：以前、日出生活館の更新計画があると聞いたがその後進捗はあるか。

町長：計画では今年、地域の皆さまと場所やどんな機能・構造とするか協議をさせていただき、それを踏まえて令和6年に調査・実施設計に入り、令和7年に新築工事、令和8年度に一部外構工事を進める予定。これから協議に入っていきますので、ご連絡させていただきます。

町民：日赤の関係で事業費の中に5億8千万円の医療機器とあるが、古いから買い替えるのか、新たな機器を購入するものなのか。

町長：更新するものもあるが、MR Iなど日赤病院にない機器を新規で入れるものもある。いま日赤病院に通っている方でMR I画像が必要な場合は別のところで撮影し日赤病院に持ってきてもらっているが、そういった手間はなくなる。新たに必要な医療機器についてはこの機会に導入していく予定。

町民：日赤病院では検査できないので札幌に行くようにと年に数回言われる。ある程度の検査は日赤病院でできるような機器をそろえてほしいという要望です。